

力、明暗順応の調整機能、視野、聴力、臭覚、痛覚等）等が低下（特に、バランス保持力及び脚筋力が低下）し、消防活動、訓練時において受傷するケースが増えることから、五感いきいき安全教育プログラムを活用して、職員一人ひとりが自分の身体能力を認識して、安全意識を高め、維持する努力が肝要である。

5 図上訓練

(1) 図上訓練とは

災害の発生にともなう各種の事態を一連の状況として予測し、これに対する災害対策要員の状況整理、各担当業務間の連携及び対処の要領等について、統一された対応策を遅滞なく講ずることのできるように、実際に災害対策本部を開設し、被害想定地図や表示駒等を使用して実践する訓練をいう。

この訓練では、情報の収受から災害応急対策の立案まで、具体的に各担当の任務や意思決定までの一連の過程が検証できるとともに、災害に対応する能力を養うことや、災害に対するイメージーション能力を高めることを目的とするものである。

(2) 導入による効果

災害現場管理は、部隊管理、隊員管理及び安全管理等にあることから、単に各級指揮者の指揮能力を向上させるだけでなく、安全管理に対する感性を磨き、イメージーションを高めることが重要である。震災消防活動訓練等に実用化されている、状況付与型図上訓練（状況シナリオ付与型、情報リテラシー型）や状況予測型図上訓練（状況シナリオ創出型、ビジョン型）を他の消防活動訓練にも効果的に活用していく必要がある。

6 実災害に近似した環境を再現できる施設の必要性

実災害に近似した環境下（濃煙熱気状態、バックドラフトやフラッシュオーバー等の火災状況、ガラス・瓦落下、梁・柱・壁倒壊、床抜け、釘等の踏み抜き等）において、安全管理に係る消防活動訓練を実施することは、現状では様々な課題がある。特に、火災と煙を自在に再現できる訓練施設の設置が困難であることから、発煙筒や現示旗等による擬似的環境下における訓練とせざるを得ない状況にあるため、消防職員が火災現場での危険を実感しながら安全管理に取り組むことができないのが実情である。

7 その他の安全管理にかかる効果的な教育訓練等

(1) 「受傷事故速報」の提供

受傷事故が発生した場合には、後日に詳細情報を提供することも重要であるが、関心の冷めない早い段階で重要情報のみを速報で流すことが安全意識の向上にとって有効である。